

で(途中F13位がある)今朝登っていった右俣(どちらかといえは本流)との合流点に着く。一五分程で橋(金山沢橋)まで下り林道を歩いて車を置いてある所まで行き吾妻川を遡行したパーティと落ち合った。

(記: 一)

(タイム)

下降開始一二:五〇—二俣一四:四〇—金山沢橋一四:五五

戸倉川右俣右沢

一九七九年七月二十二日

◆天気(晴)

未知の沢を登るときには胸がわくわくしてくる。たゞえ地図をみて、たぶん大きな滝はないだろうと予測ができて、突然に二〇位も三〇位の大きな滝が現われることを期待して一步一步遡行していく。

この戸倉沢は白布峠に源をおこす標高差約五〇〇メートル程の中規模の沢である。数ヶ所にナメコ栽培地があつて沢沿いにだいたい奥まで道が入っており、丸太橋がかかつて

いた。ちよつとしたゴルジュがあつたが、滝は我々の期待に反して強いてとりあげる程のものではなかつた。このように奥まで道のついた沢は沢登りとしての興味には全く欠ける。

(記: 二)

(タイム)

出合六:二五—二俣六:四五—終了八:五〇

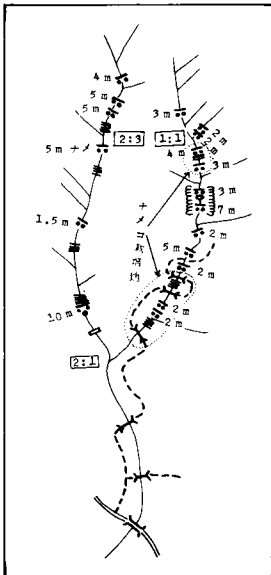
戸倉川右俣左沢

一九七九年七月二十二日

(下降)

◆天気(晴)

九時一〇分下降開始。最初五メートル程の小滝が三つ出てきて、これならと期待させたがその先は平凡。おまけにブ



戸倉川右俣
(作図: 著)

ツシユがかぶさってきて歩きにくい。最後の一〇分滝で少し遊んで砂防ダムを越えると、もう朝方廻行していった右沢との出合であった。

(記・i)

(タイム)

下降開始九・一〇―二俣一二・一五

大樽川

下流部廻行

一九八〇年十月十二日

◆天気(曇のち霧)

スカイバレーの管理小屋付近から沢に降りる。少し進むとゴルジュとなる。F1は登れるがF2の直登は少し無理なので二つをあわせて捲く。じきにスカイバレーの橋に出る。この上にも昔の林道の橋がかかっている。

左岸にスカイバレーを見ながら沢は左に曲がる。その先に滑りながら支沢が入っている。程沢である。ここらあたりは明るい河原である。

しばらくすると沢が狭くなりS字状となる。その中にある二つの小滝を直登するとその上に砂防ダム。一五分もある。左岸を捲いて下ると広い河原。紅葉が美しい。沢が小さな屈曲をくり返し、トロとナメ、小滝が続く。F4は右岸の小沢を少し登り、岩場をトラバースしてF5と共に捲く。

小沢が両岸から次々と入り、沢は狭く暗くなってくる。やがて竜崎沢出合。本流の方は右に曲がりこんでいる。砂防ダムを越えると今度は芳沢出合。今日は視界も悪くなってきたので上流部の廻行は後日を期してここで終わりにする。

(記・i)



大樽川核心区